

## 第27次消防審議会(第4回)の開催

### 総務課

平成26年11月27日(木)に、第27次消防審議会(消防庁長官の諮問機関。会長・室崎益輝神戸大学名誉教授)の第4回会議を開催しました。

開会に当たり、坂本森男消防庁長官から、次のとおり挨拶がありました。

#### 第27次消防審議会第4回会議 消防庁長官挨拶



皆様、おはようございます。

お忙しいところ御出席いただきまして、本当にありがとうございます。7月22日に消防庁長官に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。日頃から消防防災行政につきまして御協力を賜っておりますことに対しまして、改めて厚く御礼申し上げます。

私は、就任以来4か月経過したところですが、昨年の10月に大島の土砂災害が起こりまして、約1年の間に8月の広島土砂災害、それから9月27日の御嶽山の噴火の災害、そして、つい先週の末の11月22日、長野県の神城断層の地震が起こりまして、3つ立て続けに緊急消防援助隊の派遣要請をするということになりました。

この中でも広島土砂災害につきましては、救助活動中の消防職員が殉職されました。先日の消防葬につきましても私が出席してまいりましたけれど

も、そのような困難な状況の中で多くの消防職員、消防団員の皆様に長期間にわたって懸命な捜索活動に従事していただいたことに非常に心強く思っている次第でございます。

先日の長野県の神城断層の地震につきましては、夜中の10時8分に地震が起こりまして、その後、情報収集をしましたが、停電がありました。夜中でありましたので、万が一、中越地震のような感じで土砂災害に巻き込まれた車両等があると、連絡が入ってこないという可能性もあるものですから、すぐ長野県の阿部知事と連絡を取りまして、緊急消防援助隊のヘリコプターを朝方派遣するということと、朝の捜索に備えて夜中の際に地上部隊を近くまで参集させておくということで、東京都隊と新潟県隊、富山県隊の地上の3隊を大町の周辺まで移動させておくという形で指示をいたしました。

結果は、地域の自主防災組織、そして消防団、消防職員の極めて速やかな活動によりまして、1人の犠牲者も出さずに済んだという非常に喜ばしい結果になったわけでございます。小谷村などは、3,000人の人口で二百数十名の消防団員がおりまして、あの地域全体でも、土曜、日曜と、各々1,000名以上の消防団員が活動したところでございます。

北アルプス広域消防本部は約90名の消防職員しかおりません。一番北部の消防署は白馬でございまして、小谷村には消防署はなかったわけでございますけれども、そういった状況の中で非常に救出活動が、近隣の力を得ながら救助活動を続けられたということに対しまして、本当に地域防災力の必要性というのを実感したところでございます。

この第27次の消防審議会におきましては、いろいろと精力的な御審議をいただきました。去る7月3日には、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方に関する中間答申」を取りまとめたところでございます。消防庁といたしまして、この答申を受けまして、早速加入促進を図るための

通知を発出いたしました。平成27年度の概算要求におきまして、例えば若者や女性の消防団の加入促進を図るためのモデル事業に係る経費を、中間答申の趣旨を踏まえた施策として盛り込んだところでございます。

女性に関しましては、10月に内閣総理大臣を本部長とした、すべての女性が輝く社会づくり本部を設置しまして、政策パッケージを決定したところです。この中には、女性消防団員の加入促進が盛り込まれておりまして、今2万2,000人おります女性消防団員でございますけれども、更に積極的な加入促進を図ってまいりたいと考えております。

それから、去る8月29日、消防団を中核とした地域防災力充実強化大会を契機に、消防団を中核としました、こういった防災力の強化の機運を盛り上げていく必要があると考えております。そのため引き続きこの消防審議会におきまして、地域防災力の充実強化の在り方について忌憚ない御意見を賜りまして、今後の施策に反映してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

近年の大規模化、複雑・多様化する災害や事故から、国民の生命、身体及び財産を守るために、着実に消防防災体制を強化する必要があると考えております。最後になりますが、皆様方の更なるお力添えをお願い申し上げます。ありがとうございます。

消防庁長官 坂本森男

今回の会議においては、まず、中間答申後の初の開催であることから、「今後の調査審議の進め方について」について、消防庁から説明を行いました。次に、「社会経済情勢の変化を踏まえた今後の地域の防災の在り方について」として、①地域の防災を取り巻く社会経済情勢、②地域の防災の主体の状況について、消防庁から説明を行いました。

これらの説明の後、委員間での意見交換が行われました。委員からは、地域ごとの事情の違いも踏まえた常備消防、消防団、自主防災組織、女性防火クラブ等といった地域の防災の主体の役割分担や位置付けに関する御意見を中心に、幅広い御意見が出されました。

また、「その他」として、石井委員から、日本医師会において作成された「ICS基本ガイドブック」等についての御紹介がありました。

次回第5回会議は、年明け年度内の開催を予定しており、今回会議における各委員からの御意見を踏まえた具体的な議論を行う予定です。

なお、消防審議会の配布資料、議事要旨及び議事録は、消防庁ホームページ（[http://www.fdma.go.jp/neuter/about/shingi\\_kento/shingi.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/about/shingi_kento/shingi.html)）に掲載しています。

#### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 消防庁長官挨拶
- 3 議題
  - (1) 今後の調査審議の進め方について
  - (2) 社会経済情勢の変化を踏まえた今後の地域の防災の在り方について
  - (3) その他
- 4 閉会



#### 問合わせ先

消防庁総務課 濱里、安藤、山田  
TEL: 03-5253-7506